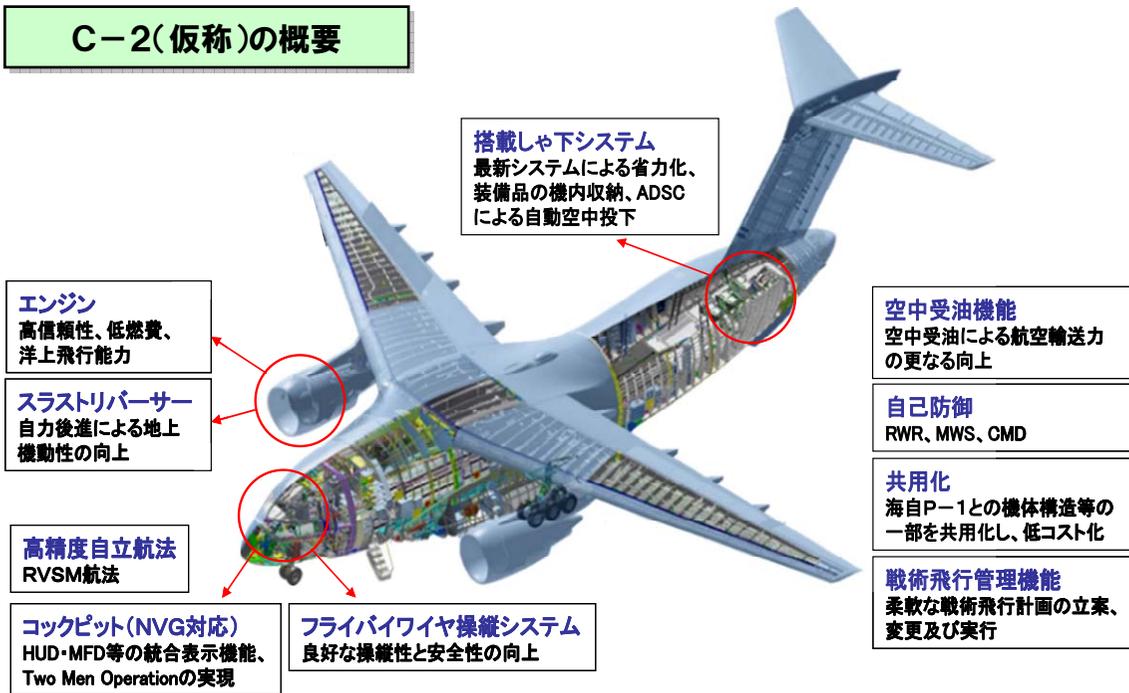


次期輸送機(C-2(仮称))の概要

C-2(仮称)取得の目的

- 航空自衛隊が保有する現有輸送機(C-1)については、運用開始から約40年以上経過しており、平成20年代半ばから、耐用命数到達により、減勢する見込みである。
- 島嶼部における各種事態への対応等への対処能力を確保し、国際平和協力活動等における空輸任務の向上を図るため、C-1の後継として、次期輸送機(C-2(仮称))を整備する。

C-2(仮称)の概要



性能諸元	
全 長	約44m
全 幅	約44m
全 高	約14m
エンジン	GE CF6-80C2
推力、発数	約50,000lb × 2
貨物搭載量	約30t
速度性能	MO. 8

C-2(仮称)の導入による効果①

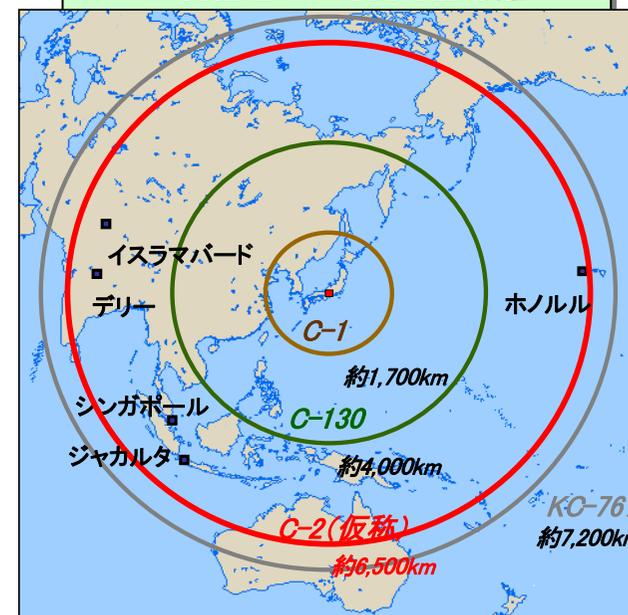
航続距離の向上

- 航続距離について、C-1が約1,700km(2.6トン搭載時)、C-130Hが約4,000km(5.0トン搭載時)に対し、C-2(仮称)は約6,500km(12.0トン搭載時)となり、これまで以上に、国際平和協力活動等の国外派遣に迅速に対応可能となる。

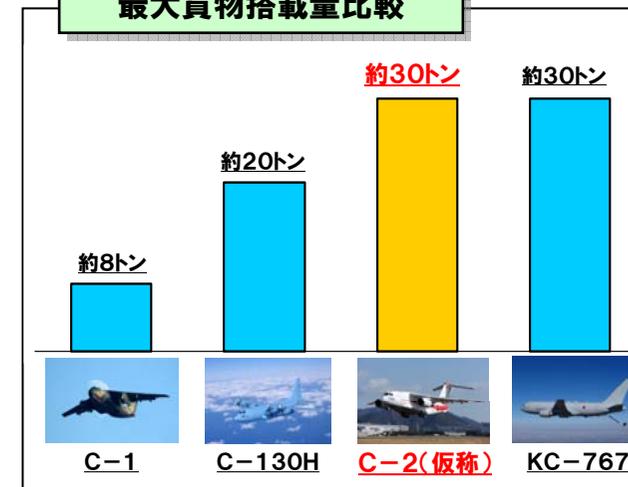
貨物搭載能力の向上

- 搭載貨物量においては、C-1が約8トン、C-130Hが約20トンに対し、C-2(仮称)においては約30トンとなることから、国外派遣等における輸送可能な装備品が拡大される。

空自輸送機の行動可能距離



最大貨物搭載量比較

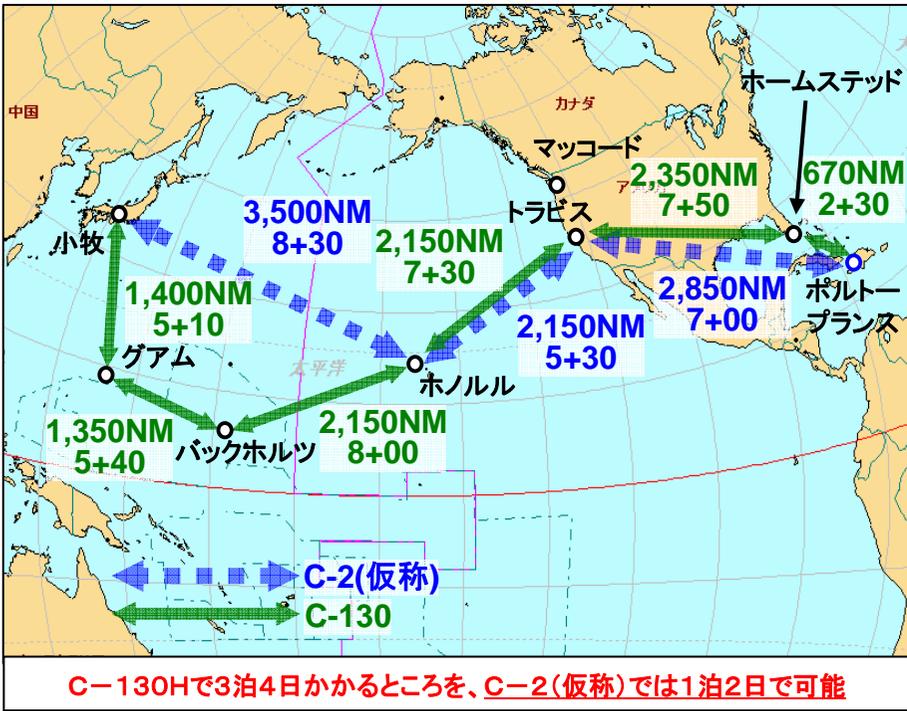


C-2(仮称)の導入による効果②

国外任務への対応能力の向上

- 国際平和協力活動の本来任務化に伴い、自衛隊が国際平和協力等に主体的・積極的に取り組むための体制整備を実施してきているところ。
- C-2(仮称)の導入により、人員や物資を迅速に展開させることが可能となり、航空輸送能力の更なる向上が期待される。

国外運航の例(ハイチ)



主な搭載可能装備品

C-2(仮称)		
UH-60 機械工作車 牽引車	野外手術システム 冷凍冷蔵庫 大・中型セミトレーラ	油圧ショベル 重レッカ 中型ドーザ 燃料タンク車
C-130		
UH-1 野外入浴セット 機動衛生ユニット	大型トラック 小型ドーザ 指揮通信車	道路マット敷設装置 浄水セット 軽レッカ 浄水車
C-1		
野外洗濯セット 軽装甲機動車 高機動車 航空機牽引車 迫撃砲牽引車 対空レーダ装置	中型トラック 小型トラック 航空電源車 フォークリフト 航法援助装置 120mm迫撃砲	資材運搬車 射撃管制装置 電源車 生物剤偵察車 化学防護車